Agilent Technologies 社製 XFe96／XFe24 インジェクションテスト手順

本書は XFe96／XFe24 の「インジェクションの不具合」が起きた際に、インジェクションの動作確認を行う手順を記載しています。原因究明や解決策の説明は「XF シリーズ インジェクション不具合対応手順」をご参照ください。

【必要なもの】

- センサーカートリッジ・ユーティリティプレート・細胞培養プレート各 1 枚（未使用のもの。期限切れ可）
- キャリブレーション溶液　約 25mL
- フェノールレッド入りの培地又はフェノールレッドで着色した精製水　約 12mL
- ピペットマン・ピペットチップ

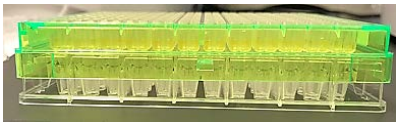
【インジェクションテスト手順】

◆装置の準備とセンサーカートリッジの水和（約 10 分：前日又は計測の数時間前）

- XFe 本体、PC を起動後、Wave ソフトウェアを起動し、37℃で保温を開始する。
- 未使用のセンサーカートリッジをキャリブレーション溶液で水和する。
  - 前日の対応が難しい場合でも、2～6 時間は装置の保温・水和が必要（本テスト限定の対応）。
  - 使用期限の切れたカートリッジで可。

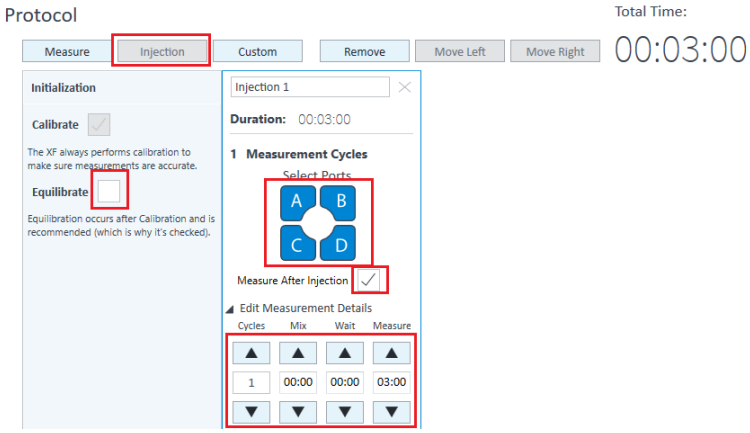
◆インジェクション液の充填（約 10 分）

- 培地又はフェノールレッドで着色した精製水を、カートリッジの全てのインジェクションポートに充填する。
  - 各ポートへの分注量／**XFe96：25uL、XFe24：75uL**
  - 気泡が入らないよう注意する。カートリッジ上部に液が付いた場合にはキムワイプなどで拭き取る。



◆テンプレート作成・計測実行（キャリブレーション含め約 35 分）

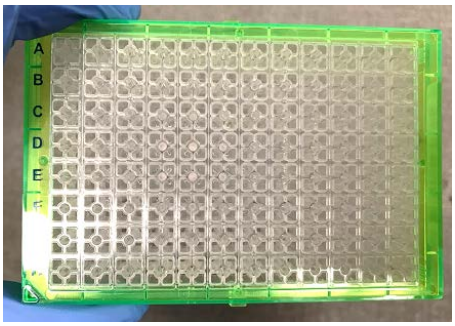
- Wave ソフトウェアを起動後、Home 画面から Blank テンプレートをクリックしてテンプレート作成に進む。
- 以下のようなプロトコルを作成する。
  - Equilibrate なし、Basal 計測なし（×で削除）、Injection 1 で A/B/C/D 全て選択、Mix/Wait 0 分・Measure 3 分の 1 サイクル　（計測時間短縮のためのプロトコル）

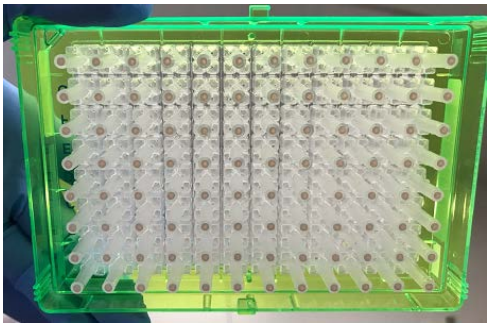


- 日付_Injection test 等のタイトルをつけ、Start ボタンにて計測を開始する。
  - 期限切れのカートリッジを用いた場合、カートリッジを Load した後、期限が切れているとアラートが出るが、構わず「Continue」で進める。
- 20～30 分後、キャリブレーションが完了したら、プレートを細胞培養プレートに入れ替える。
  - 水和時間が短いとキャリブレーションエラーになることがあるが、構わず「Continue」で進める。
  - 細胞培養プレートには培地等は入れなくて良い。
  - プレート入れ替え直後にインジェクション動作音が 4 回連続で鳴る。
- 計測が完了したら、「Eject」を行い、カートリッジとプレートを取り出す。

◆結果の確認（約 2 分）

- 取り出したカートリッジのポートを目視で注意深く観察し、溶液が排出されているか確認する。
  - 裏面から確認すると分かりやすい。ポートの先端に少しついているのは正常。
  - 手袋やゴーグル等の保護具を着用すること。





- 全てのポートで正常に排出されれば、インジェクションテストは合格（＝装置は正常）。

動作確認の結果を弊社担当にご連絡ください。

ご不明な点等がありましたら、弊社テクニカルサポートまたは営業担当まで、ご連絡くださいますようお願い致します。

お問合せ：
プライムテック株式会社
www.primetech.co.jp

技術部・テクニカルサポート
東京都文京区小石川1-3-25 小石川大国ビル2F
Phone：03-3816-0851（代表）　Fax：03-3814-5080
E-mail：support@primetech.co.jp